

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆



せりがやだより

横浜市立芹が谷小学校 令和5年度 2月学校便り

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

「謙虚さ」に満ちる世の中に

副校長 富永 亮大

新年を迎えました。本年もよろしくお願いいたします。

さて、学校では、いよいよ学年の一年間のまとめの時期になります。私の朝会の講話「芹が谷小のみんなのよいところを見つけたニュース」も大詰めとなり、今回は、「謙虚」であることが自身にも周りにも好影響を及ぼすことを話題にしました。

きっかけは、休み時間が終わったときに、委員会活動の当番で職員室から持ち出していた鍵を返却しに来た高学年の子どもの言葉です。その日は、長い休み明けで、しかも、休み時間が短い日でした。3時間目の始まりに遅れた子どもたちは、「時間がかかってしまって、鍵を返しに来るのが遅くなりました。すみません。」と謝りました。私は、当番の仕事をしっかりとやり遂げてきたのに謝るなんてと思い、「ありがとう。たいへんだったね。時間のことは、また気をつけてくれればよいから。」と言葉を返しました。

私は、よく二項の条件を組み合わせて、四種の選択を考え、中間の二種を比べて、自身や相手がどの価値をより重視しているかを確認しています。例えば、「速さ」と「丁寧さ」を組み合わせると、次のようになります。

◎速くて、丁寧。(最上級)

○**雑**だけど、**速**い。 / ○**遅**いけど、**丁寧**。

△遅くて、雑。(要努力)

上段と下段については言わずもがなですが、完璧でなければ、ほとんどの場合、中段のいずれかになります。このとき、どちらの価値を優先しているかが見えてきます。どちらが正しくて、どちらが誤っているということではありません。状況によって、速さを求められたり、丁寧さに応えたりする場合があります。そのうえで、どちらを選ぶことがより多いかを考えると、自分(あるいは、相手)がどちらの価値を重視しているかが浮かんでくるわけです。(これは、どのような組み合わせも可能です。試しに、「強さ」と「優しさ」や「元気さ」と「静かさ」などで考えてみてください。)

さて、ここで前述した委員会活動の子どもたちです。長い休み明けで、きっといつもより仕事が多くなっているのに、休み時間が短いという厳しい条件のなかで、いつもと同じくらいまでやり遂げることを選んだのでしょ。う。何なら、それをアピールして、だから時間どおりに終われなかったと説明してもよかったです。しかし、そこで伝えられたのは、自らの足りなかつた点への思いでした。十分に力を尽くしてくれていることが分かっているこちらとしては、それなのに不十分な面について自ら言及されては、注意や指摘・指導は不要、頭が下がる思いすらしました。自らが力を尽くした者だけがもつことができる自負とその手応えに根差した「謙虚さ」は、たいへん晴れ晴れしかったです。そのことに意識が向いていれば、さらなる成長を叶えることができるでしょうし、相手や周りに人たちからも頼もしく思われる日々を送ることになるでしょう。同じ「人」だから、このように大人が子どもの姿に学ぶこともよくあります。今年も、そして、これからも、子どもたちのこうした成長を楽しみにしたいと思います。

とも **共にチャレンジ** **かがや** **みんな輝け!**